

## **【保育專門課程】**

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（選択必修）	子どもの発育と発達		藤田 倫子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>①乳幼児期の心身の発育発達について理解する。  ②生活習慣づくりや体力・運動能力の向上のための実践について理解する。  ③運動あそびの指導に必要な理論や知識を身につける。  ④乳幼児期に必要なあそびの内容を理解し、実践に必要な体力・運動能力や運動スキルを身につける。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
乳幼児期の子どもたちに必要な運動あそびを実践しながら、子どもの育ちに応じた運動指導が行えるように、関連した理論と実践を学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション・理論学習「近年の子どもの体の異変とその対策」「子どもの生活と運動」		
2	小テスト・実践「からだを使った運動あそび（からだづくり）」		
3	実践「からだを使った運動あそび（ふれあいあそび・仲間づくり）」		
4	実践「からだを使った運動あそび（鬼ごっこ）」		
5	理論学習「幼児体育の意義と役割」「運動と安全管理」		
6	小テスト・実践「手あそび・リズムを使った運動あそび」		
7	実践「身近なものを使った運動あそび（タオル・新聞紙）」		
8	実践「用具を使った運動あそび（ボール・縄）」		
9	理論学習「子どもの発達と運動」「運動発現のメカニズム」		
10	小テスト・実践「用具を使った運動あそび（ボール・縄）」		
11	実践「用具を使った運動あそび（マット・跳び箱・平均台）」		
12	実践「コーナーあそび・サーキットあそび」		
13	理論学習「幼児体育指導上の留意事項」		
14	小テスト・実践「用具を使った運動あそび（パラシュート）」		
15	実践「運動会」・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業内で行う小テスト4回分50点、②授業への参加・意欲50点、合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>実技実践を基本とするが、必要な理論については講義形式での授業を行う。主題の理解を深めるため、授業参加者が意見を交わす対話形式も取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。  担当教員は、保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（必修）	体育理論		村上 剛
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①体育・運動・スポーツの目的や意義について理解する。 ②運動・スポーツの効果を理解する。 ③健康の概念について理解し、自分自身の健康観を説明することができる。			
<b>【講義概要】</b>			
生涯に役立つ、体育・スポーツや健康に関する一般的な理論について理解を深めていく。また、生涯スポーツの観点から、運動やスポーツの必然性について理解を深める。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス, 体育・運動・スポーツ・健康とは		
2	健康と体力の関係		
3	運動・スポーツの効果（呼吸循環器系に対する効果）		
4	運動・スポーツの効果（代謝・体温調節機能に対する効果）		
5	運動・スポーツの効果（体格に対する効果）		
6	運動・スポーツの効果（心理学的効果）		
7	運動と睡眠		
8	運動と栄養		
9	トレーニング		
10	競技スポーツ		
11	生涯スポーツ		
12	アダプテッドスポーツ		
13	運動・スポーツの指導		
14	運動・スポーツと安全		
15	まとめ（学びの振り返り）		
<b>【成績評価方法】</b>			
①筆記試験60点、②授業への参加・意欲20点、③ノートの内容（授業時に回収）20点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするがクラスで議論しながら授業をすすめていく。担当教員は、幼児から成人の健康教育指導の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習（健康）I		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>保育者は、子どもの心身の健康を保持し、安全を守ることが求められることから、子どもの心身の状態や発達状態を理解することが重要である。</p> <p>また、子どもを取り巻く環境が大きく変化していることも踏まえ、保育者の役割や子どもへの指導援助方法を身につけることを目標とする。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>保育内容演習（健康）Iについて、以下の4つのテーマから学習を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「健康」のねらいと内容を理解する。</li> <li>2. 子どもの健康をめぐる現状を理解し、健康な生活リズムの形成について具体的な保育方法を学ぶ。</li> <li>3. 子どもの身体の諸機能および運動発達の特徴と意義を理解する。</li> <li>4. 安全管理や安全教育のあり方と指導援助方法を身につける。</li> </ol>			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	子どもの健康を取り巻く諸問題		
3	保育・幼児教育における領域「健康」の位置付け		
4	1歳以上3歳未満児における領域「健康」のねらいおよび内容の理解		
5	3歳以上児の領域「健康」のねらいおよび内容の理解		
6	子どものからだと発育・発達		
7	健康な生活リズムの理解と形成①（生活リズムの理解）		
8	健康な生活リズムの理解と形成②（活動と睡眠のバランス）		
9	健康な生活リズムの理解と形成③（食習慣の形成と食育）		
10	保育における運動遊び		
11	安全管理と安全教育		
12	健康づくり啓発ポスター・園だよりの作成①		
13	健康づくり啓発ポスター・園だよりの作成②		
14	保育者の健康観		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①確認テスト（60点）、②授業への参加・意欲・提出物（40点）の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義形式を基本とするが、現代の子どもの姿や園での様子等、映像なども適宜取り入れる。</p> <p>担当教員は、食育インストラクターの資格を有し、また幼稚園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（必修）	1年次セミナー		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①専門職である保育者を目指すために一般常識を学ぶ。 ②就職に向けた知識を習得する。 ③職業訓練の場として、専門職である保育者として必要なことを身につけていくことをテーマとする。			
<b>【講義概要】</b>			
・専門職である保育者を目指すための一般常識・就職に向けた知識の習得と準備を行う。			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	専門学校生として・保育者としての心構え①	16	将来設計・職業観について①
2	専門学校生として・保育者としての心構え②	17	将来設計・職業観について②
3	専門学校生として・保育者としての心構え③	18	将来設計・職業観について③
4	専門学校生として・保育者としての心構え④	19	将来設計・職業観について④
5	専門学校生として・保育者としての心構え⑤	20	将来設計・職業観について⑤
6	専門学校生として・保育者としての心構え⑥	21	将来設計・職業観について⑥
7	専門学校生として・保育者としての心構え⑦	22	将来設計・職業観について⑦
8	専門学校生として・保育者としての心構え⑧	23	将来設計・職業観について⑧
9	専門学校生として・保育者としての心構え⑨	24	将来設計・職業観について⑨
10	専門学校生として・保育者としての心構え⑩	25	将来設計・職業観について⑩
11	専門学校生として・保育者としての心構え⑪	26	将来設計・職業観について⑪
12	専門学校生として・保育者としての心構え⑫	27	将来設計・職業観について⑫
13	専門学校生として・保育者としての心構え⑬	28	将来設計・職業観について⑬
14	専門学校生として・保育者としての心構え⑭	29	将来設計・職業観について⑭
15	振り返りとまとめ	30	振り返りとまとめ
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加を100点として、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
自らが考えて学びとることを大切に、2年後保育士として現場に立つときに必要なことを、グループワークなどで学んでいく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・集中	1単位・45時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（必修）	キャンプ実習 I		村上 剛
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
YMCAの組織キャンプの理解と体験を通して、自然・仲間・自己と向かう機会とする。そこから創造的、教育的実体験を得ることを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
<p>キャンプ実習 I は、以下の3つのテーマから学習を進める。</p> <p>①キャンプ実習に参加するにあたり、ふさわしいふさわしい身なりと態度を身に付ける。</p> <p>②キャンプを通して自然の中での生活や活動を行い、その特性や安全管理等を学ぶ</p> <p>③小集団活動を通して交流を深め、コミュニケーション能力等、その集団の成長を図る。</p>			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	施設実習の意義目的		
3	各施設の目的や支援内容		
4	施設で暮らす子どもや利用者の理解		
5	福祉施設の実際①		
6	福祉施設の実際②		
7	福祉施設の実際③		
8	実習先に関する理解		
9	個人票と実習計画の作成		
10	施設実習の記録について①(時系列記録)		
11	施設実習の記録について②(保育の学びを深める記録とは)		
12	施設実習の記録について③(日誌を改善する)		
13	実習における倫理について		
14	実習の留意点		
15	保育の学びを深める実習にするための準備		
<b>【成績評価方法】</b>			
事前準備・取り組み(20点)、②実習への参加・意欲(30点)、③事後レポート(50点)の合計100点として、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
東京YMCA野尻キャンプ場にて、3泊4日の集中の実習形式を主な内容とするが、事前に映像等でキャンプイメージを明確に持ち、また、そのための準備を行う。担当教員は実務経験に基づいてキャンプを展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（選択必修）	キリスト教保育		鈴木 法子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
キリスト教保育への理解を深めること、実習先や就職先でキリスト教保育を実践できるようになること、さらに、キリスト教保育の考え方もとにしてキリスト教保育以外の保育現場での保育の質向上も目指せるようになることを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
キリスト教保育について、以下の4つのテーマから学修を進める。			
1. キリスト教保育とは何かを学ぶ。			
2. キリスト教保育の具体的に保育実践について学ぶ。			
3. キリスト教保育の具体的な方法を実践して学ぶ。			
4. キリスト教保育以外の現場でキリスト教保育の考え方を生かす意義について学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	現代社会とキリスト教保育		
3	キリスト教保育における行事		
4	キリスト教保育の実際		
5	子どもと聖書		
6	キリスト教保育の教材1		
7	キリスト教保育の教材2		
8	クリスマスの準備1		
9	クリスマスの準備2		
10	クリスマスの準備3		
11	クリスマスの準備4		
12	クリスマスを祝う		
13	お話の実演		
14	お話の実演		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加・意欲（50点）、②作品（50点）の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
授業では毎回「幼児さんびか」「こどもさんびか」等を歌う。歌うことだけでなく、楽器を演奏することも推奨する（リコーダー、鈴、カスタネット、キーボード、手作り楽器等、どのような楽器も歓迎）。授業では覚えることよりも考えること、聴くことと語ることを重視する。講師の現場での経験をもとに制作や聖書のお話等の活動も交えキリスト教保育について具体的に学べるよう授業を進める。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
コンピューター I	2024年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（選択必修）	コンピューター I		渡邊 夏海
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 文章作成に支障なくタイピングができる。 2. windows（OS）の基本的な操作ができる。 3. Microsoft Word - 文書作成ツールの基本的な操作ができる。 4. Microsoft PowerPoint- プレゼンテーションツールの基本的な操作ができる。 6. ITリテラシーの基礎知識を説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育者が扱う文書はさまざまあり、その作成にも多くの時間が費やされる。この授業は、特に使用頻度の高いワープロ、プレゼンテーションといったアプリケーションを中心に学び、パソコンの操作に慣れることを目的とする。加えて、ITリテラシーについての学びも深める。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	オペレーティングシステムの操作方法・ファイル操作		
3	文書作成ツールを使用する		
4	定型文書を作成する		
5	保育にまつわる文章を作成する		
6	図を作成する（基本的な操作方法を知る）		
7	図を作成する（実際に作成する）		
8	イラストを作成する（基本的な操作方法を知る）		
9	イラストを作成する（実際に作成する）		
10	プレゼンテーション資料を作成する（基本的な操作方法を知る）		
11	プレゼンテーション資料を作成する（実際に作成する）		
12	プレゼンテーション資料を作成する（実際に作成する）		
13	プレゼンテーション		
14	表計算ツールを使用する		
15	図・表を作成する		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験（50点）、②授業への参加・意欲（50点）の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
担当教員は、実務経験に基づき授業を展開する。			



開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	運動・表現あそび I		木原 寛子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
子どもにとって必要な遊びとはどのようなことであるのか、また、表現や運動をすることの意味やそのことが子どもの発達や感性等にどのようにかかわっていくのかを実技を通して身につけることを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
運動・表現あそび I について、以下の4つテーマから学習を進める。			
1. 現代の子どもの姿から、子どもの豊かな成長・発達に必要な運動遊びを考察する。			
2. 子どもの運動遊びの実技を通して、その指導援助法を学ぶ。			
3. 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な身体表現に関する知識や技術を習得する。			
4. グループワークを通して、自己表現力や協調性を高める。			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	オリエンテーション		
2	子どもの身体活動の現状と課題		
3	幼児期運動指針の概要と推進するための配慮		
4	基本的動作とその分類		
5	個から集団へ発展する運動遊び		
6	身近な素材を使った運動遊び		
7	身体表現の意義と特徴		
8	伝承遊び		
9	模倣遊び		
10	リズム遊び		
11	グループワーク①		
12	グループワーク②		
13	グループワーク③		
14	グループ発表		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加・意欲（40点）、②ノート内容（40点）、③レポート課題（20点）の合計100点として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
運動遊びや身体表現等を通して、保育者として必要な動作認識と身体能力を培っていけるよう、実技形式を基本とする。また、現代の子どもの姿や園での様子等の映像を適宜取り入れていく。			
担当教員は、幼児体育、身体表現を専門とし、保育士養成校での職務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・後期	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの食と栄養		迎しのぶ
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>①バランスの良い食事について理解し、自身の食事を振り返って考えることができるようになる。</p> <p>②五大栄養素の知識を深め、自分に必要な栄養を理解する。</p> <p>③離乳食について期分けや食品の種類など、時期に応じた食べ方を口腔の発達から理解し、離乳食を作ることができるようになる。</p> <p>④食物アレルギーな他特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</p> <p>⑤食育の知識を深める。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>「何を、いつ、どこで、誰と、どのくらい食べるか」健康的な毎日を過ごすために、食事の知識は欠かすことができないものである。栄養の基本について理解を深め、まずは自身の食生活を充実させることが重要であり、その上で子どもの食事について考える。子どもの成長は乳児期・幼児期・学童期と心身ともに発育・発達が著しい反面、摂食機能や消化吸収能は未熟であるために、それぞれの時期に応じた栄養や調理形態を学ぶことが大切である。さらに今の子どもの食生活の現状と課題について理解を深める。</p>			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	栄養に関する基礎知識		
2	歯の発達、消化と吸収、食品成分表の使い方		
3	食品成分表の活用、摂取するエネルギーと消費するエネルギー		
4	栄養アセスメント、食品群ごとの特徴		
5	PFCバランス、五大栄養素1.炭水化物・食物繊維		
6	五大栄養素2.たんぱく質		
7	五大栄養素3.脂質、4.ビタミン、5.ミネラル		
8	食事摂取基準、献立作成		
9	小児の栄養と食生活、発育と発達		
10	実習1. 調乳、離乳食1		
11	乳児期の食生活		
12	授乳・離乳の支援ガイド		
13	幼児期の食生活、生涯発達と食生活		
14	実習2. 離乳食2		
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養・食育		
<b>【成績評価方法】</b>			
①*授業終了時に課す質問50点、②授業への参加・意欲10点、③試験40点、合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、献立作成などの演習、調乳・離乳食等の実習も行う。担当教員は保健センターなどでの実務経験に基づき授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子ども家庭支援の心理学		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 生涯発達に関する心理学の観点に基づき、初期経験の重要性、各ライフステージの発達の特徴と課題を説明できる。 2. 家族・家庭の意義や機能、親子関係・家族関係を発達の観点で説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
子ども家庭支援の実践に必要な心理学の基礎知識（生涯発達の心理学に基づく初期経験の重要性、家族・家庭の理解、子育て家庭をめぐる現状と課題、心の健康を含む子どもの精神保健）について、具体的に理解を深めます。			
回	授業計画および学習の内容		
1	生涯発達とは何か		
2	生涯発達①（乳児期）		
3	生涯発達②（幼児期）		
4	生涯発達③（学童期前期）		
5	生涯発達④（学童期後期）		
6	生涯発達⑤（青年期）		
7	生涯発達⑥（成人期）		
8	生涯発達⑦（老年期）		
9	家族・家庭の理解①（家族・家庭の意義と機能）		
10	家族・家庭の理解②（親子関係・家族関係の理解）		
11	家族・家庭の理解③（子育て経験と親としての育ち）		
12	子育て家庭に関する現状と課題①（ライフコースと仕事・子育て）		
13	子育て家庭に関する現状と課題②（多様な家庭とその理解）		
14	子どもの精神保健とその課題①（生活・生育環境とその影響）		
15	子どもの精神保健とその課題②（子どもの心の健康に関わる問題）		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（30点）、③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義に加えてワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。 担当教員は、幼児から成人の地域医療福祉の実務経験に基づき授業を展開します。 指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子ども家庭福祉		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 子どもや子育て家庭を取り巻く環境・課題について説明できる。 2. 子どもの権利や、子ども家庭福祉の理念について説明できる。 3. 子ども家庭福祉に関わる法令や、社会的施策について説明できる。 4. 子ども家庭支援の意義について説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育士に求められる子ども家庭福祉に関する基礎知識（子どもや子育て家庭を取り巻く環境、子どもの人権擁護、歴史、法律・制度、現状と課題、動向と展望）を学習します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	子ども家庭福祉とは何か		
2	子どもや子育て家庭を取り巻く環境①（子どもの生活環境の変化）		
3	子どもや子育て家庭を取り巻く環境②（子育て環境の変化）		
4	子どもや子育て家庭を取り巻く環境③（子ども・子育てに関する課題）		
5	子どもの権利		
6	子ども家庭福祉の理念		
7	子ども家庭福祉に関する法令①（児童福祉法以外の児童福祉6法）		
8	子ども家庭福祉に関する法令②（児童福祉法の概要）		
9	子ども家庭福祉に関する法令③（児童福祉法の改正）		
10	子ども家庭福祉の実施機関①（国・地方公共団体、行政組織、その他の団体）		
11	子ども家庭福祉の実施機関②（児童福祉施設）		
12	子ども家庭福祉の専門職		
13	子ども家庭福祉の歴史		
14	子育て支援と子どもに関する諸問題		
15	地域における連携・協働		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（30点）、③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義に加えてワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。 担当教員は、幼児から成人の地域医療福祉の実務経験に基づき授業を展開します。 指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	社会的養護 I		関屋 光泰
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ol>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>現代社会における社会的養護の姿から、保育・児童福祉専門職として「大切なこと」を自ら考え習得する。そのために本講義ではテキストに沿って各テーマを理解するとともに、資料などによって事例から学ぶ。社会的養護と関連する現場と教室を結びながら、対象児童の生活、家族等の背景や一人ひとりの心情を想像し、子どもたちを中心とした支援の方法や支援者の姿勢を探求する。</p>			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	オリエンテーション、今日の子どもをとりまく家庭と社会の状況について		
2	社会的養護の理念と概念、歴史の変遷		
3	子どもの人権擁護と社会的養護		
4	社会的養護の基本原則		
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務		
6	社会的養護の制度と法体系		
7	社会的養護のしくみと実施体系		
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク		
9	社会的養護の対象と支援のあり方		
10	家庭養護と施設養護		
11	社会的養護にかかわる専門職		
12	社会的養護に関する社会的状況		
13	施設等の運営管理の現状と課題		
14	まとめ①（被措置児童等の現状と課題）		
15	まとめ②（社会的養護の現状と課題） <上記は、進捗の状況等に応じて柔軟に変更する>		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験70%、②授業への参加・意欲30%として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>児童自立支援施設「国立武蔵野学院」内に、厚生労働省が設置している児童自立支援専門員養成所（現「人材育成センター 養成部」）の非常勤講師を勤めています。社会的養護の施設の中でも児童自立支援施設は、非行問題を中心に支援していますが、対象児童の被虐待経験、障害、生活困窮、家族問題等が背景にあります。社会的養護とは、家庭が抛り所になることが困難な子どもを社会的に養育する取り組みです。その子どもへの支援の方法、制度等を解説しながら、子どもの虐待、社会的孤立、障害、貧困等の問題と、支援の取り組みを事例も活用しながら授業を進めていきたいと思ひます。</p>			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	社会福祉		鶴 清忠
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史の変遷、子ども家庭支援について説明できる。</p> <p>2. 社会福祉の制度・実施体系について説明できる。</p> <p>3. 社会福祉における相談援助・利用者保護について説明できる。</p> <p>4. 社会福祉の動向・課題について説明できる。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>保育士に求められる社会福祉の基礎知識（社会福祉に関する問題・課題、社会福祉の役割・意義・歴史、社会福祉の対象、社会福祉の実践、近年の動向・課題）について学習します。また、社会福祉における子ども家庭支援の視点についても習得できることを目指します。</p>			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	オリエンテーション、社会福祉とは何か		
2	社会福祉の歴史～欧米編～		
3	社会福祉の歴史～日本編～		
4	子どもの権利と福祉		
5	福祉のニーズと福祉サービス		
6	社会福祉を取り巻く現状		
7	子育て支援		
8	障害児・者福祉、高齢者福祉		
9	社会的養護		
10	生活困窮者福祉		
11	相談援助の基礎		
12	福祉の担い手～専門職とボランティア～		
13	福祉サービス利用者支援		
14	社会福祉再考		
15	社会福祉の動向と課題		
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（30点）、③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。</p>			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義に加えてグループワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。</p> <p>担当教員は、乳幼児から高齢者の地域福祉の実務経験に基づき授業を展開します。</p> <p>指定テキストはありません。</p>			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	障害児保育		藤田 美葉
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 障がい児保育の現状と課題、障がい児保育を支える理念について説明できる。 2. 主な障がいに関する状態や特性について説明できる。 3. 主な障がいに関する具体的な援助方法について説明できる。 4. 家庭への支援や関係機関との連携・協働について説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
障がい児保育の現状と課題、障がい児保育の歴史やインクルージョンの理念を学びます。様々な障がいとその特性を知り、事例を通して心身の発達に応じた具体的な援助や配慮について理解を深めます。また、障害児通所支援における発達支援、家庭支援や関係機関との連携の重要性について学びます。			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	ガイダンス・障がい保育の概要	16 指導計画及び個別の支援計画①	
2	障がいの概念・障がい児保育の基本	17 指導計画及び個別の支援計画②	
3	発達とは	18 発達を促す生活や遊びの環境	
4	脳の発達と構造	19 感覚を活かした遊びと支援	
5	脳の発達と障がい	20 設定や教材教具の工夫	
6	障がいの理解と発達の援助	21 親との連携と支援	
7	感覚統合の発達	22 子供同士のかかわり合いと育ちあい：統合保育	
8	視覚・聴覚障がい児の理解と援助	23 子供同士のかかわり合いと育ちあい：分離保育	
9	肢体不自由児の理解と援助	24 保護者や家族に対する援助	
10	知的障がい児の理解と援助	25 地域の専門職や機関との連携	
11	発達障がい児の理解と援助	26 障がいに対する理念の変化	
12	重症心身障がい児・医療的ケア児の理解と援助	27 保健・医療における現状と課題	
13	前期のまとめ	28 福祉・教育における現状と課題	
14	障がい児支援制度の理解と実践：フィールドワーク（児童発達支援）	29 支援の場の広がりとながり	
15	障がい児支援制度の理解と実践：フィールドワーク（児童発達支援）	30 後期のまとめ	
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験（60点） ②授業への参加・意欲（30点） ③小レポート（10点） の合計100点として成績評価を行います			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義に加えて個人・グループワークを行うことにより、主体的に学びを深められるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小レポートを課します。担当教員は、実務経験に基づき授業を展開します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・通年（後期）	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	造形あそび I		塩川 岳
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>①あそびと造形活動を通して「上手・下手」という価値にとらわれず、個々の感性や資質を尊重し、幼児の豊かな造形表現を引き出すための保育者としての姿勢を育成する。</p> <p>②基礎的な道具の使い方や素材の特性を知り、保育現場で活用するための素地を学ぶ。</p> <p>③鑑賞を通して他者の表現を認め、自らの感想を自らの言葉で表明する習慣をつける</p>			
<b>【講義概要】</b>			
保育現場で扱うことが多い道具・素材の基礎的な知識や特性について学び、作品制作、グループディスカッション、鑑賞の時間を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションについて考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	季節と表現		
2	季節と表現		
3	季節と表現・鑑賞		
4	身近材を利用した造形あそび		
5	身近材を利用した造形あそび・鑑賞		
6	グループによる造形表現（1）		
7	グループによる造形表現（2）		
8	グループによる造形表現（3）		
9	グループによる造形表現（4）		
10	グループによる造形表現（5） 鑑賞		
11	ねんどを素材とした活動		
12	ねんどを素材とした活動		
13	ねんどを素材とした活動		
14	ねんどを素材とした活動・鑑賞		
15	後期のふりかえり・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			



開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・通年（前期）	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	造形あそび I		塩川 岳
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>①あそびと造形活動を通して「上手・下手」という価値にとらわれず、個々の感性や資質を尊重し、幼児の豊かな造形表現を引き出すための保育者としての姿勢を育成する。</p> <p>②基礎的な道具の使い方や素材の特性を知り、保育現場で活用するための素地を学ぶ。</p> <p>③鑑賞を通して他者の表現を認め、自らの感想を自らの言葉で表明する習慣をつける</p>			
<b>【講義概要】</b>			
保育現場で扱う事が多い道具・素材の基礎的な知識や特性について学び、作品制作、グループディスカッション、鑑賞の時間を通して、子どもや保護者とのコミュニケーションについて考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	幼児の絵について(講義+演習)		
3	クレヨン・色鉛筆を素材とした活動・鑑賞		
4	絵具を素材とした活動		
5	絵具を素材とした活動・鑑賞		
6	紙を素材とした活動		
7	紙を素材とした活動・鑑賞		
8	紙を素材とした活動		
9	紙を素材とした活動・鑑賞		
10	身近材を素材とした活動		
11	身近材を素材とした活動・鑑賞		
12	身近材を素材とした活動		
13	身近材を素材とした活動		
14	身近材を素材とした活動・鑑賞		
15	前期のふりかえり・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
教養科目（必修）	体育実技		村上 剛
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①幼児とのかかわりに対応できる運動技能，体力を身につける。 ②ボールゲームを通じて，運動の楽しさを体感する。 ③運動遊びを通じて，運動の楽しさを体感する。			
<b>【講義概要】</b>			
実際に自らが運動あそびやボールゲームなどを体験しながら，その楽しさを体感していく。また，体験する中で，子ども達がどのように感じながら運動を行うのか，その指導において大切な事はなにか考え，体育についての自らの考えをまとめてゆく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス，コミュニケーション行動，社会化，実体験		
2	ボディーコントロール 運動あそび①		
3	ボディーコントロール 運動あそび②		
4	リレーあそび 運動あそび③		
5	縄跳び運動 運動あそび④		
6	ボールゲーム①		
7	ボールゲーム②		
8	ボールゲーム③		
9	ボールゲーム④		
10	ボールゲーム⑤		
11	ボールゲーム⑥		
12	道具を使ったスポーツ①		
13	道具を使ったスポーツ②		
14	道具を使ったスポーツ③		
15	道具を使ったスポーツ④		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加50点②参加意欲50点，の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
運動あそび等の楽しさを体感しつつ，理論的な裏付けも同時に学習する。 担当教員は，幼児から成人の健康教育指導の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2024年度	1年・前期
講義区分	授業科目名		担当教員
必須科目	乳児保育 I		荒木 美紗
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①乳児保育の意義・目的と役割等について理解する。 ②多様な保育の場、および現代における乳児保育の現状と課題について理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
3歳未満児を対象として実施する乳児保育の基本理念や役割等について学ぶとともに、乳児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満児の発育・発達の特徴について学び、ふさわしい生活や遊び、保育者の援助について学ぶ。			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	オリエンテーション		
2	乳児保育の意義と役割		
3	乳児保育の現状と課題		
4	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と配慮		
5	6ヶ月未満児の発達過程からみる保育内容①		
6	6ヶ月未満児の発達過程からみる保育内容②		
7	6ヶ月～1歳児の発達過程からみる保育内容①		
8	6ヶ月～1歳児の発達過程からみる保育内容②		
9	1～2歳児の発達過程からみる保育内容①		
10	1～2歳児の発達過程からみる保育内容②		
11	2～3歳児の発達過程からみる保育内容①		
12	2～3歳児の発達過程からみる保育内容②		
13	乳児保育における職員間の連携と協働		
14	乳児保育における環境構成		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への参加・意欲(50点)、小レポートの提出(50点)の合計100点とし、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
乳児保育の対象となる3歳未満児の発育・発達の特徴を踏まえ、援助の仕方や一人ひとりのこどもを尊重し、あたたかく丁寧に関わる大切さについて、実践を通して考え合う。			
講義に加えてグループワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。 担当教員は、乳幼児から高齢者の地域福祉の実務経験に基づき授業を展開します。 指定テキストはありません。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育の心理学		沖石菜穂子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①子どもの発達を理解することの意義を学ぶ ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を学ぶ ③子どもの発達支援について学ぶ			
<b>【講義概要】</b>			
子どもの発達の道筋について保育に必要な基本的な知識を得る。子どもの発達を知ることの意義を理解し、発達支援について学ぶ。また、現代に起きている子どもの育ちに関わる問題についても知識を得る。			
回	授業計画および学習の内容		
1	子どもの発達を理解することの意義		
2	子どもの発達と環境		
3	子ども観・保育観		
4	発達理論から見た子ども観		
5	社会情動的発達		
6	身体機能と運動機能の発達		
7	認知の発達		
8	言語の発達		
9	発達の遅れと偏り①		
10	発達の遅れと偏り②		
11	乳幼児の学びに関する理論		
12	不適切な養育とは何か		
13	学童期から青年期までの発達		
14	成人期から老年期までの発達		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
期末試験（100点満点）によって評価する。授業への参加・意欲・態度に大きな問題を認めた場合は減点の対象となる。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
基本は講義形式。子どもの発達を理解するために動画を使用する。 担当教員の本職は臨床心理士・公認心理師。発達に問題を抱えた事例に対応してきた経験を踏まえて、授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習（環境）Ⅰ		鈴木 法子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
保育内容「環境」の意義を理解し、さらに、乳幼児の生活、遊び、学びの質を向上させる保育環境のあり方を理解することを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
以下の4つのテーマから学修を進める。			
1. 保育内容「環境」について学修する。			
2. 「環境を通じた教育」の意義を学修する。			
3. 保育における「環境」の具体的な実践を学修する。			
4. 保育の質向上のための「環境」づくりを学修する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	領域「環境」の意義と課題		
2	ねらい及び内容における「環境」		
3	子どもの発達と環境		
4	0歳児の発達と「環境」		
5	1歳以上3歳未満児の発達と「環境」		
6	3歳児以上の発達と「環境」		
7	5歳児後半の「環境」と小学校との接続		
8	自然との関わり		
9	園内環境		
10	園外環境		
11	指導計画と環境		
12	多文化・障害のある子どもの環境		
13	地域環境との関わり		
14	保育者の環境		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加・意欲（50点）、②作品（50点）の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育における「環境」は五領域の一つであるのみならず、日本の保育ナショナルカリキュラムの根幹となる概念である。保育における「環境」の概念を保育現場の具体的な状況に即して理解できるよう、講師の実務経験を生かして授業を進める。手作り保育教材づくり、パワーポイントの作成による授業の振り返り等を行い、学生自らが周囲の環境に主体的に働きかけながら授業に参加できるようにする。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育内容演習（表現）Ⅰ		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
保育における子どもの「表現」をどのように受け止め、理解していくのか。また、子どもの豊かな感性を育てていくには、どのような援助指導が必要なのかを考える。さらに、自分の五感の可能性を感じ取り、自己の表現力を高めていけるよう実践的な表現活動を通して学ぶことを目標とする。			
<b>【講義概要】</b>			
保育内容演習（表現）Ⅰについて、以下の4つのテーマから学習を進める。 1.領域「表現」のねらいと内容を理解する。 2.子どもの発達と表現について理解する。 3.様々な表現活動を通して、子どもの豊かな感性を育む援助方法を学ぶ。 4.グループ演習を通して協調性を身に付け、また様々な表現方法に触れる。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	保育・幼児教育における領域「表現」の位置付け		
3	乳幼児期の「表現」の発達について		
4	教材研究①（ブックカバー制作）		
5	教材研究②（紙）		
6	教材研究③（クレヨン・絵の具）		
7	教材研究④（粘土）		
8	教材研究⑤（自然）		
9	教材研究⑥（おもちゃ制作）		
10	グループ演習①（壁面制作）		
11	グループ演習②（壁面制作）		
12	グループ演習③（壁面制作）		
13	グループ演習④（壁面制作）		
14	領域「表現」における今日的課題		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加・意欲（50点）②ノート内容・レポート課題（50点）《最終授業時に回収する》の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
色々な教材に触れながら様々な表現活動を体験し、子どもたちの豊かな感性を育てるような援助方法を学べるよう、実践演習形式で授業を展開する。 担当教員は、おもちゃインストラクターの資格を有し、また幼稚園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子ども家庭支援論		今井 世都
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>①現代の家庭が置かれている状況を理解し、その課題を説明することができる。</p> <p>②子どもが育つ家庭の役割を理解する。</p> <p>③保育者としての支援の必要性を理解し、具体的に支援を支える知識を習得する。</p> <p>④保育者や地域で行われている支援の実際を理解する。</p> <p>⑤子ども家庭支援に関する今後の課題を具体的に説明できる。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
現代の家庭を取り巻く社会状況を踏まえて子育て家庭の抱える困難を理解し、子どもにとって社会的支援がなぜ必要なのかを学ぶ。また保育士が子育て家庭を支援する時の目的を捉え、実践例をみながら家庭の理解と支援内容、保育者としての基本的な考え方と態度を学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション：子育て支援の背景や必要性について		
2	現代における家族と子育て		
3	子どもの育ちに対する家族・家庭の役割		
4	子どもの育ちにおける家庭支援の必要性		
5	保育の専門性を活かした家庭支援の目的		
6	子ども家庭支援の対象と内容		
7	保育士に求められる基本的態度①相談・支援の方向性		
8	保育士に求められる基本的態度②保護者の気持ちを理解するために		
9	保育所利用家庭への支援		
10	地域の子育て家庭への支援		
11	子育て支援の政策動向		
12	子育て支援の制度		
13	子ども家庭支援に関する課題		
14	まとめ（学びの振り返り）		
15	まとめ（理論と実践を繋ぐ）		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験60点、②授業への参加・意欲30点、③ノートの内容（授業時に回収）10点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。 担当教員は、幼稚園・保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子育て支援		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①「子どもの育ち」につながる子育て支援のあり方とその意義について理解する。②子育て支援における保育者の役割と職務内容を把握する。③さまざまな人々と連携した支援方法の基礎を習得する。			
<b>【講義概要】</b>			
①多様な子育て家庭が存在する中で、子どもが健やかに成長するために必要な子育て支援について学ぶ。②保育者に期待されているそれぞれの家庭に沿った具体的な支援方法について理解を深めていく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、子育て支援とは		
2	子育て支援の意義		
3	子育て支援の基本的価値・倫理		
4	子育て支援の基本的姿勢		
5	子育て支援の基本的技術		
6	園内・園外との連携と社会資源		
7	記録・評価・研修		
8	日常会話を活用した子育て支援		
9	文書を活用した子育て支援		
10	行事などを活用した子育て支援		
11	環境を活用した子育て支援		
12	地域子育て支援拠点における支援		
13	入所施設における子育て支援		
14	通所施設における子育て支援		
15	まとめと今後の課題		
<b>【成績評価方法】</b>			
①確認テスト（筆記試験）50点 ②授業への参加・意欲30点 ③ワークシートの提出・内容20点 の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育現場で問題となっている事柄や社会問題となっている事柄に対して、保育者が対応していくために必要な知識や技術について具体的事例を通して学んでいく。担当教員は、保育所での実務経験に基づき授業を展開する。			



開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法		鶴 清忠
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や、利用者への対応、地域とのかかわり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。			
<b>【講義概要】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館・放課後児童クラブにおける日々の活動の流れ ・年間を通じた活動の流れ、行事等の企画立案方法</li> <li>・小学生の仲間づくり、子育て支援活動、児童館・放課後児童クラブの基本的活動の実施方法、児童厚生員の役割</li> </ul>			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、児童館・放課後児童クラブ（以下、「学童クラブ」と言う）とは		
2	児童館・学童クラブの歴史、1日（週・年）の流れと活動のねらい		
3	ソーシャルワークとは（総論）①		
4	ソーシャルワーク（ケースワーク）②		
5	ソーシャルワーク（グループワーク）③、体験学習に向けて（心得等）		
6	児童館での体験学習① 学童クラブの実際		
7	児童館での体験学習② 児童館運営の実際		
8	体験学習に振り替え		
9	児童館・学童クラブと児童虐待		
10	子育て支援（乳幼児支援）の実際		
11	ソーシャルワーク（コミュニティワーク）④、学校・地域・関係機関との連携		
12	子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案、ミニ児童館祭り準備①【演習①】		
13	児童厚生員の役割		
14	ミニ児童館祭り準備【演習②】		
15	ミニ児童館祭り実施（企画発表）【演習③】		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験60% ②企画立案30% ③授業への意欲10%の合計100点として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
担当教員は、乳幼児から高齢者の地域福祉の実務経験に基づき授業を展開します。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年前期	1単位30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必須科目	実習指導 I - 2		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 福祉施設等 (保育所以外) 実習の意義 目的を説明できる。 2. 施設実習の内容を理解し、自らの課題を述べるができる。実習指導を通して自己覚知を促進する。 3. 実習における倫理・マナーを説明できる。 4. 施設実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育士には、保育所以外の福祉施設や、その他の福祉サービスの現場でも実践可能な知識、技術の習得が求められます。この授業での学びと実習での学びを接合し、保育の学びを深めることを目指します。【授業計画は予定であり、学習の進捗状況に合わせて変更します】			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	施設実習の意義目的		
3	各施設の目的や支援内容		
4	施設で暮らす子どもや利用者の理解		
5	福祉施設の実際①		
6	福祉施設の実際②		
7	福祉施設の実際③		
8	実習先に関する理解		
9	個人票と実習計画の作成		
10	施設実習の記録について① (時系列記録)		
11	施設実習の記録について② (保育の学びを深める記録とは)		
12	施設実習の記録について③ (日誌を改善する)		
13	実習における倫理について		
14	実習の留意点		
15	保育の学びを深める実習にするための準備		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加意欲 (50点)。 ②レポート課題 (50点) の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実習に関する講義に加えて、グループワーク等を行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	実習指導Ⅱ		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
保育実習・保育関連科目で学んだ保育の専門知識や技術を、保育現場での実体験を通して、保育者の役割を学び、保育者を志す者としての自身に向き合う。			
<b>【講義概要】</b>			
1.児童について実践を通して、理解する。 2.生活の実態にふれて、保護者支援のための知識・技術・判断力をする。 3.実習の内容について具体的に理解する 4.実習において自己の理解を深める。			
回	授業計画および学習の内容		
1	保育実習などの振り返り		
2	保育士の子育て支援		
3	今日の社会と子ども		
4	子どもと遊び		
5	児童福祉の役割を理解する		
6	子どもや利用者を受容する		
7	生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解		
8	個別支援計画等の作成と実践		
9	子ども・利用者の家族への支援と対応		
10	各施設における多様な専門職との連携・協働とは		
11	地域社会との連携・協働とは		
12	保育士の多様な業務		
13	実習日誌・記録について		
14	振り返り		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加意欲 (50点). ②レポート課題 (50点) の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育実践の力をより高めていけるよう、実習に関しての知識・技術の確認と事前学習を行い、実習の充実を図ります。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年前期	1単位30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	実習指導Ⅲ		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 福祉施設等(保育所以外)実習の意義・目的を説明できる。 2. 施設実習の内容を理解し、自らの課題を述べるができる。実習指導を通して自己覚知を促進する。 3. 実習における倫理・マナーを説明できる。 4. 施設実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育士には、保育所以外の福祉施設や、その他の福祉サービスの現場でも実践可能な知識、技術の習得が求められます。この授業での学びと実習での学びを接合し、保育の学びを深めることを目指します。【授業計画は予定であり、学習の進捗状況に合わせて変更します】			
回	授業計画および学習の内容		
1	ガイダンス		
2	こどもの遊びを遊びこむ		
3	こどもの遊びを遊びこむ		
4	施設で暮らす子どもや利用者の理解		
5	福祉施設の実際①		
6	福祉施設の実際②		
7	福祉施設の実際③		
8	実習先に関する理解		
9	個人票と実習計画の作成		
10	施設実習の記録について①(時系列記録)		
11	施設実習の記録について②(保育の学びを深める記録とは)		
12	施設実習の記録について③(日誌を改善する)		
13	実習における倫理について		
14	実習の留意点		
15	保育の学びを深める実習にするための準備		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業への参加意欲(50点) ②レポート課題(50点)の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
実習に関する講義に加えて、グループワーク等を行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必須科目	社会的養護Ⅱ		関谷 光泰
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
現代社会における社会的養護の姿から、保育・児童福祉専門職として「大切なこと」を自ら考え習得する。そのために本講義ではテキストに沿って各テーマを理解するとともに、資料などによって事例から学ぶ。社会的養護と関連する現場と教室を結びながら、対象児童の生活、家族等の背景や一人ひとりの心情を想像し、子どもたちを中心とした支援の方法や支援者の姿勢を探求する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、子どもの権利擁護		
2	社会的養護における子どもの理解		
3	社会的養護の内容 ①日常生活支援		
4	社会的養護の内容 ②心理的支援		
5	社会的養護の内容 ③自立支援		
6	施設養護の生活特性および実際 ①乳児院等		
7	施設養護の生活特性および実際 ②障害児施設等		
8	家庭養護の生活特性および実際		
9	アセスメントと個別支援計画の作成		
10	記録および自己評価		
11	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践		
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践		
13	社会的養護におけるソーシャルワークと家庭支援（知識・技術とその応用）		
14	まとめ①（今後の社会的養護の課題と展望Ⅰ）		
15	まとめ②（今後の社会的養護の課題と展望Ⅱ） <上記は、進捗の状況等に応じて柔軟に変更する>		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験70%，②授業への参加・意欲30%として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
児童自立支援施設「国立武蔵野学院」内に、厚生労働省が設置している児童自立支援専門員養成所（現「人材育成センター-養成部」）の非常勤講師を勤めています。社会的養護の施設の中でも児童自立支援施設は、非行問題を中心に支援していますが、対象児童の被虐待経験、障害、生活困窮、家族問題等が背景にあります。社会的養護とは、家庭が拠り所になることが困難な子どもを社会的に養育する取り組みです。その子どもへの支援の方法、制度等を解説しながら、子どもの虐待、社会的孤立、障害、貧困等の問題と、支援の取り組みを事例も活用しながら授業を進めていきたいと思ひます。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	造形あそびⅡ		塩川 岳
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①演習を通し、自身の造形表現の経験を豊かにしていくとともに、幼児期の造形への理解を深める。 ②授業をヒントとし、子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考える。			
<b>【講義概要】</b>			
自然や偶然性など、日常にある現象や出来事などから美しさや面白さを見つけ、感じる心を育てる。 造形あそびの実践・体験を通して、子どもの自由な「学び」や「気づき」に寄り添う姿勢を身につける。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	造形あそびとは何か（講義＋演習）		
3	遊びから見つける（偶然の表現）		
4	遊びから見つける（偶然の表現）		
5	遊びから見つける（光と色）		
6	遊びから見つける（光と色）		
7	遊びから見つける（つなげる）		
8	遊びから見つける（つなげる）		
9	遊びから見つける（組み合わせる）		
10	遊びから見つける（組み合わせる）		
11	グループ演習（ディスカッション）		
12	グループ演習（制作）		
13	グループ演習（制作）		
14	グループ演習（プレゼンテーション・デモンストレーション）		
15	ふりかえり・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・集中	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目	体育指導実習		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
運動あそびの指導実習を通して、子どもにスポーツや運動の楽しさを伝え、幅広い指導体験を行う。また、子どもの心身の発達特性に留意しながら、子どもが多様な運動を経験できるよう、保育者としての資質や能力の向上、さらにその			
<b>【講義概要】</b>			
体育指導実習について、以下の3つのテーマもって行う。 1. 保育現場等における、運動あそびやスポーツのプログラムの実際を把握するとともに、保育者・指導者としての役割や指導法を体験しながら学ぶ。 2. 運動あそびやスポーツプログラムを通して感じた自身の感動体験を子どもたちにも伝えられるようになる。 3. 子どもにとって必要な運動あそびやスポーツとはどのようなものか、現代の子どもの姿から考え、指導計画を立案し実践する			
回	授業計画および学習の内容		
1	1. オリエンテーション（指導計画等）		
2	2. プログラムの趣旨を理解し、対象者の実態を把握する。		
3	3. 指導計画案の作成を行う。		
4	4. スポーツ・運動あそびの指導実習		
5	5. 指導者の役割を理解し、指導法・対象者における動向の把握・施設用具の安全管理などを実践の場を通して学ぶ。		
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
<b>【成績評価方法】</b>			
①事前準備・取り組み（20点）②実習への参加・意欲（50点）③事後レポート（30点）の計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育所・幼稚園等で行っているスポーツ指導や運動あそび、また、民間団体等が開催している親子運動等、実際の現場において指導実習を行う。また、幼児体育指導員の資格取得を目指す。 担当教員は、幼稚園・専門学校や民間団体にてスポーツ/ダンス指導の経験があり、実務経験に基づいて展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必須科目	乳児保育Ⅱ		水澤 聖
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
① 3歳児未満の発育・発達の家庭や特性を踏まえた関わりの基本的な考えを理解する ② 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満の子供の生活や遊びと保育の方法及び環境構成を理解する ③ 乳児保育における配慮の実際について理解する ④ 乳児保育における計画の作成について理解する			
<b>【講義概要】</b>			
乳児保育Ⅰの理論と内容を踏まえ、さらに具体的な乳児の遊び（おもちゃ・手遊び・絵本）を通じ実践に結びつことが出来るように事例検討やディスカッションを行う			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	オリエンテーション・乳児保育Ⅰの振り返りを行い、乳児保育の基本を確認する		
2	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり 1		
3	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり 2		
4	6カ月未満児の発達と保育内容		
5	6カ月～1歳3カ月未満児の発達と保育内容		
6	1歳3カ月～2歳未満の発達と保育内容		
7	2歳児の発達と保育内容		
8	保育の質を高めるための観察と記録・子どもを観察する 1		
9	保育の質を高めるための観察と記録・子どもを観察する 2		
10	保育の質を高めるための観察と記録・観察から子どもの成長の支援		
11	保育の質を高めるための観察と記録・子どもの発達から育ちを深め記録に残す		
12	子どもの心身の健康と安全と情緒の安定を図るため、保護者と支援を配慮を学ぶ 1		
13	子どもの心身の健康と安全と情緒の安定を図るため、保護者と支援を配慮を学ぶ 2		
14	個々の発達を促す生活と遊びの環境構成		
15	乳児保育のこれからと保育者に望まれるもの		
<b>【成績評価方法】</b>			
レポート（30点）・観察記録（30点）・授業参加（30点）・授業態度（10点）の合計100点とし、成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
0・1・2歳児がどのように育つのかを学び、一人一人の子どもの成長発達に合わせて関わることの大切さについて、現場の様子を紹介しながら進めていく。遊びを授業で体験し、ディスカッションをし、自分のものとしていく。子どもの様子を観察し、保育者が関わることで子どもの成長の変化を学んでいく。担当教員は、認可保育所で現場経験を積み、現在保育者の人材育成を担っている。			



開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・通年	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	発達心理学		沖石 菜穂子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①1年次「保育の心理学」で学んだことを復習しながら、子どもの発達支援について学ぶ。 ②「親になる」という発達について学び、親支援について理解する。 ③発達途上で起きる様々な問題について理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
人間の生涯発達について基本的な知識を復習しながら確かなものにしていく。保護者を支援するために知識・技術を身に付ける。また、発達途上で起きる様々な問題について、保育士として必要な知識を得る。			
回	授業計画および学習の内容		
1	発達するとはどういうことか		
2	周産期の発達（胎児期・乳児期の発達）		
3	母親のメンタルヘルス		
4	赤ちゃんがとらえる世界		
5	コミュニケーションの発達①		
6	コミュニケーションの発達②		
7	関わりの中で育まれる自己		
8	学童期の発達		
9	幼児期・学童期に起きる習癖・行動上の問題		
10	青年期の発達		
11	発達の遅れと偏り		
12	不適切な養育によって何が起きるのか		
13	親になるということ		
14	援助的な関わりについて		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
期末試験（100点満点）.授業への参加意欲・態度に大きな問題がある場合は減点の対象とする。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義以外にグループディスカッションや援助的なかわりについてのワークも実施する。 担当教員は臨床心理士・公認心理師としてのカウンセリング経験に基づいて講義を行う。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・後期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育の計画と評価		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①保育所を理解し,保育所における内的な計画について理解をする. ②保育計画と指導計画の基本を理解する. ③発達の連続性を理解し,計画→実践→評価・省察→次の保育に活かすというサイクルを具体的に理解する.			
<b>【講義概要】</b>			
保育所保育指針を基に保育の基本的な考え方や内容に関する事項を捉え,保育の構造を学ぶ.子どもの実態に即した計画を作成し,実践することを目的とする.さらに,実践を振り返り評価し結果を踏まえた改善を次の計画へ反映するまでのサイクル,PDCAサイクルのあり方を身に付け実践につなげることを目的とする.			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	保育の基本について		
3	保育所の理解		
4	全体的な計画		
5	全体的な計画から指導計画へ		
6	指導計画の作成の基本とその方法		
7	乳児の育ちと指導計画①		
8	乳児の育ちと指導計画②		
9	幼児の育ちと指導計画①		
10	幼児の育ちと指導計画②		
11	保育の実践と評価①		
12	保育の実践と評価②		
13	実践演習①		
14	実践演習②		
15	まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①課題60点, ②発表10点, ③授業態度30点の合計100点として,成績評価を行う.			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが,講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ,保育に対する自らの学びを深める.			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・通年	2単位・60時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育実践演習		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・おびテーマ】</b>			
<p>1. 保育士として必要な専門的知識及び技術，総合的な判断力や倫理観等が習得，形成されたか自らの学びを振り返り把握する。</p> <p>2. 保育実習や研修を通じた学びに基づき，保育者の役割とは何か，多様な視点から考察する力を習得する。</p> <p>3. 1及び2を踏まえ，自己の課題を明確化し，研究論文としてまとめて発表する</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>これまで学んだ授業・研修・実習等を通して，自己の課題や保育者像を探求し，研究論文としてまとめる。その上で，今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法を明確にし，自らの保育実践力を身に付ける。</p>			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション	16 現場研修事前学習	
2	保育とは，保育の仕事を振り返る	17 現場研修①	
3	保育の場で求められる保育実践力の理解	18 現場研修②	
4	保育実践の実際と今後の課題の理解	19 研修の振り返り①	
5	研究テーマ設定に向けて①	20 現場研修③	
6	研究テーマ設定に向けて②	21 現場研修④	
7	文献検索と収集	22 研修の振り返り②	
8	研究テーマの確定	23 本論執筆③	
9	中間発表（テーマ，背景，目的）	24 本論執筆④	
10	研究方法の検討①	25 本論執筆⑤	
11	研究方法の検討②	26 本論執筆③	
12	研究倫理	27 本論完成・提出	
13	本論執筆①	28 発表準備	
14	本論執筆②	29 研究発表	
15	論文発表の方法	30 振り返りまとめ	
<b>【成績評価方法】</b>			
①論文提出50点②論文発表30点③現場研修報告書20点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
前半は講義形式，後半はゼミナール形式や現場研修（乳幼児施設，学童，児童館）を行い，各自のテーマに沿って研究を進める。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの健康と安全		高橋 亮
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>本科目では、実際の保育現場で必要となる子どもの健康と安全に関する基礎的知識と必要なケアの技能を身につけるための学修を行う。また、子どもの発育・発達状態を理解するとともに、子どもの病気の予防や健康教育、疾病の早期発見、救急救命処置と安全な保育環境についての知識と技術を学ぶ。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>1.子どもの成長発達や生理的機能の観察方法について学修する  2.子どもの健康状態の把握および健康管理について学修する  3.病児や体調不良の子ども、障がいをもつ子どもへの対応と必要な援助を学修する  4.日常生活の養護にかかわる健康教育および安全教育を学修する</p>			
回	授業計画および学習の内容		
1	乳幼児期の発達の評価と健康状態の観察		
2	子どもの身体計測の測定方法		
3	子どものバイタルサインの測定方法		
4	子どもの生活環境における安全および感染予防①（子どもの事故の特徴とその対策）		
5	子どもの生活環境における安全および感染予防②（子どもの予防接種と学校感染症（小児感染症））		
6	救急処置が必要な子どもへの対応①（救命救急処置に関する基礎知識）		
7	救急処置が必要な子どもへの対応②（心肺蘇生法と気道異物除去法）		
8	健康問題が子どもと家族に及ぼす影響①		
9	健康問題が子どもと家族に及ぼす影響②		
10	子どもと家族を取り巻く環境と健康問題①		
11	子どもと家族を取り巻く環境と健康問題②		
12	災害を受けた子どもの健康問題		
13	個別の配慮を必要とする子どもへの対応		
14	保健計画の作成と活用		
15	確認テスト		
<b>【成績評価方法】</b>			
確認テスト（100点）			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義および演習形式を基本とするが、手技についてはDVD視聴なども適宜取り入れて具体的に理解できるような授業を展開する。  担当教員は看護師資格と保育士資格を持ち、また小児病棟での看護師経験もあるので、実務経験に基づいた授業を展開する。</p>			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	子どもの理解と援助		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども一人ひとりの心身の発達や、学びを把握することの意義について説明できる。</li> <li>2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解するための基本となる考え方を説明できる。</li> <li>3. 子どもを理解するための具体的な方法を説明できる。</li> <li>4. 子どもの理解に基づく保育士の援助・態度の基本となる考え方を説明できる。</li> </ol>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>保育士には、子ども一人ひとりの理解と、複数人の子どもから形成される集団の理解の両方が求められます。その理解に基づき、子どもと信頼関係を築きます。そして、発達を促進する経験を子ども自ら獲得していけるような援助をすることが求められます。本講義では、こうした望ましい援助の基盤である子ども理解について学びを深めます。</p>			
回	授業計画および学習の内容		
1	保育における子ども理解		
2	「能力を伸ばす」ことだけに囚われない		
3	「子ども中心主義」の罠		
4	保育の二つの目標		
5	子どもの主体性		
6	子どもの二面性①		
7	子どもの二面性②		
8	保育者の視点①		
9	保育者の視点②		
10	個と集団		
11	保育者の対応の二面性		
12	発達の課題に応じた援助		
13	子どもにとっての遊び①		
14	子どもにとっての遊び②		
15	まとめ・ふりかえり		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（30点）、③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義に加えてワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。</p> <p>担当教員は、幼児の地域医療福祉の実務経験に基づき授業を展開します。</p> <p>指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。</p>			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育者論		今井 世都
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①保育者の具体的な役割と求められる倫理観について理解する。 ②保育士の制度的な位置づけを理解する。 ③保育士の専門性や基礎的な資質能力について理解し説明できる。 ④保育者の連携と他職種との協働について理解する。 ⑤保育者としての学びの継続性とキャリア形成について理解する。			
<b>【講義概要】</b>			
子どもが求めている保育者と現在の日本の社会が求めている保育を考え、役割を具体的に学び理解する。その上で自分の保育者像を描き目指していく。また、保育者の専門性向上のための研修の意味と制度的な位置づけを理解し、保育職の職業的特徴について学ぶ。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション：「保育者になる」ということ		
2	保育者の役割について：子どもの思いや育ちを理解する仕事		
3	保育者の倫理について：保育士の専門的倫理と法律		
4	保育士の制度的位置づけについて		
5	保育士の専門性について①：資質・能力とは		
6	保育士の専門性について②：養護と教育が一体となった教育とは		
7	保護者や家庭と一緒に歩む仕事①：保護者への支援		
8	保護者や家庭と一緒に歩む仕事②：保護者懇談会・個人面談や相談		
9	学び合う保育者となるために①：保育者の専門性と省察		
10	学び合う保育者となるために②：チーム保育の重要性		
11	「保育者に求めること」保育園の園長から学ぶ		
12	保育者の専門性の発達について		
13	保育士のキャリア形成について		
14	まとめ（学びの振り返り）		
15	まとめ（理論と実践を繋ぐ）		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験60点、②授業への参加・意欲30点、③ノートの内容（授業時に回収）10点の合計100点として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。 担当教員は、幼稚園・保育園・こども園等の保育現場での実務経験に基づいて授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・集中	1単位・45時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	キャンプ実習Ⅲ		村上剛
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①自然の厳しさや素晴らしさを体験の中で、野外活動の意義や役割を理解する。 ②仲間との協働を通し、野外活動の体験をする中で、人間性や社会性を育む。 ③キャンプ生活の中で、野外活動の安全管理・安全教育・自己管理法を学ぶ。			
<b>【講義概要】</b>			
自然の中のキャンプ場で仲間との協働や野外活動を通して、自然の厳しさや素晴らしさを体験するとともに、自己の感性を磨くことをねらいとする。			
回	授業計画および学習の内容		
1	1. 自然の中でのキャンプ生活への参加。（宿泊または日帰り）		
2	2. 都会では体験することのできない野外活動体験。		
3	3. キャンプ指導者としての役割（計画・準備・実施）を学ぶ。		
4	4. 野外活動における安全管理と安全教育及び自己管理法を学ぶ。		
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
<b>【成績評価方法】</b>			
説明会および事前準備会、実習全期間における参加姿勢およびレポート提出。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
都会の生活では味わうことのできない自然で、厳しさも素晴らしい感じながら、キャンプ生活を行う。自然の中に身を置く中での安全面を考慮することの大切さ、自然の中での自己管理法を学んでいく。キャンプ参加費・交通費は自己負担となる。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・後期	単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	運動・表現あそびⅡ		藤田 倫子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①乳幼児期に適した運動あそびを創作し、指導案を作成する。 ②乳幼児期の運動指導での配慮事項について理解する。 ③乳幼児期のあそびの指導に必要な、表現力や運動スキルを身につける。			
<b>【講義概要】</b>			
子どもの姿を予見し、スモールステップから積み上げていくあそびの進め方、主体性を引き出すあそびのポイントや環境設営、			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション・指導案作成「からだだけを使った運動あそび」		
2	指導案作成「からだだけを使った運動あそび」		
3	指導実践Aー1①・検証		
4	指導実践Aー1②・検証		
5	指導実践Aー2①・討議		
6	指導実践Aー2②・討議		
7	指導案作成「サーキットあそび」		
8	指導案作成「サーキットあそび」		
9	指導実践Bシミュレーション		
10	指導実践B①・討議		
11	指導実践B②・討議		
12	指導実践B③・討議		
13	リズム体操創作①		
14	リズム体操創作②		
15	リズム体操発表・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業内で作成する、運動あそびの指導案およびリアクションペーパーの内容80点、 ②授業への参加・意欲20点、合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
計画、実践、フィードバックの流れで授業を行う。実践後、グループ討議を行い、指導実践の振り返り、指導案に加筆訂正を行う。 乳幼児期に適した運動あそびの内容であるか、対象年齢の子どもへの配慮事項を考慮した指導ができているか等、討議を行うことで 理解を深めていく。担当教員は、保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。			



開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	音楽Ⅲ（ピアノ上級）		江上 実里
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①コードによる伴奏法の習得 ②歌に合わせて合図やかけ声をしながら演奏する技術を身につける ③保育現場での実践に対応できる応用力を身につける			
<b>【講義概要】</b>			
音楽あそびで得た技術をさらに深め、保育現場での音楽活動にピアノを活用できる力を習得する。八長調、ト長調、ヘ長調のコード伴奏を中心に個人指導を行い、子どもたちが楽しく歌うための技術を身につける。弾き歌いの授業内発表及び実技試験（ピアノ）を行う。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	コードネームを知ろうー八長調①		
3	コードネームを知ろうー八長調②		
4	第1回 授業内発表～合図やかけ声をしながら弾けるようになろう		
5	コードネームを知ろうート長調①		
6	コードネームを知ろうート長調②		
7	第2回 授業内発表		
8	コードネームを知ろうート長調③		
9	コードネームを知ろうーヘ長調①		
10	第3回 授業内発表		
11	コードネームを知ろうーヘ長調②		
12	コードネームを知ろうーヘ長調③		
13	第4回 授業内発表		
14	まとめ(実技)		
15	まとめ(レパートリーの確認)		
<b>【成績評価方法】</b>			
①実技試験90点，②授業への参加・授業内発表10点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
保育の現場で活用できる教材を使用し，全体講義及び個人指導の形で行う。毎月授業内発表(弾き歌い)を行い，現場を想定した環境で実践力を高める。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・後期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	音楽あそびII		江上 実里
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①楽譜に記された音やリズムを理解し演奏できるようにする ②保育現場で使用される楽器の扱い方、正しい奏法を習得し演奏できるようにする ③各楽器の特性を理解し、子どもが歌う曲を合奏用に編曲し、スコアに表すことができる ④楽器あそびや歌あそびの具体的な指導方法を習得し、保育現場での実践に対応できる力を身につける			
<b>【講義概要】</b>			
保育現場の多くで行われている器楽合奏の正しい楽器の知識や奏法を身につけ、実際に演奏をしながら子どもへの指導法や楽譜の編曲方法を学ぶ。普段の生活や活動の中に歌や楽器があることを理解し、音楽あそびの指導計画を立てて実践する。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	楽器の取り扱い方と奏法		
3	楽譜作りの基礎①／保育現場におけるピアノの役割と表現		
4	楽譜作りの基礎②／絵本や劇中の効果音		
5	楽譜作りの基礎③／自然の中の音と歌		
6	器楽合奏の編成と演奏法①／物語と音楽①		
7	器楽合奏の編成と演奏法②／物語と音楽②		
8	器楽合奏の編成と演奏法③／物語と音楽③		
9	器楽合奏の編成と演奏法④／物語と音楽④		
10	器楽合奏のスコア作り①／物語の作成と実践①		
11	器楽合奏のスコア作り②／物語の作成と実践②		
12	器楽合奏のスコア作り③／物語の作成と実践③		
13	器楽合奏のスコア作り④／物語の作成と実践④		
14	物語発表		
15	器楽合奏発表		
<b>【成績評価方法】</b>			
①授業内発表60点、②授業への参加・意欲20点、③提出課題20点の合計100点として成績評価を行う			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義と実践活動を組み合わせて展開し、実際にグループでの演奏や発表をしながら指導法を学ぶ。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	教育原理		押切 道子
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①教育学の基礎的な理念や知識を習得する。 ②「教育とは何か」、「教育者とは何か」、「なぜ保育者を目指すのか」について探求し、現時点での保育観を見出す。 ③昨今の社会問題と教育及び子どもについて、話し合いの時間を持ち、保育者として社会に貢献することの意義について考える。			
<b>【講義概要】</b>			
現代社会における社会的養護の姿から、保育・児童福祉専門職として「大切なこと」を自ら考え習得する。そのために本講義ではテキストに沿って各テーマを理解するとともに、資料などによって事例から学ぶ。社会的養護と関連する現場と教室を結びながら、対象児童の生活、家族等の背景や一人ひとりの心情を想像し、子どもたちを中心とした支援の方法や支援者の姿勢を探求する。			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	オリエンテーション（講義内容について等）		
2	教育の変遷（西洋教育思想①）		
3	教育の変遷（西洋教育思想②）		
4	教育の変遷（西洋教育思想③）		
5	海外の子どもたち①		
6	海外の子どもたち②		
7	教育の変遷（日本の教育思想①）		
8	教育の変遷（日本の教育思想②）		
9	教育に関する法制度①		
10	教育に関する法制度②		
11	教育の問題・課題①		
12	教育の問題・課題②		
13	教育の問題・課題③		
14	まとめ（学びの振り返り）		
15	まとめ（理論と実践をつなぐ）		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験60点、②発表内容・意欲30点、③ノート（試験日に回収）10点の合計100点として、成績評価を行う。 ＊ノートは見開きA3の物を用意し、発表の際に配布する資料はB5で準備をする。＊遅刻は欠席とみなし、遅延証明書も認めない。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、授業参加者1人一回発表をする。また、他者理解として意見を交わす対話方式も取り入れ、学びを深める。担当教員は、現場経験に基づいて、授業を展開する。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	子どもキャンプ演習		山梨 雄一
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
野外教育キャンプにおける①基本的な考え方,意義を学ぶ,②指導者のあり方を学ぶ,③具体的なプログラムを作成し,発表することが出来る.			
<b>【講義概要】</b>			
豊かな自然環境の中で,キャンプ活動を行うことの意義と目的を理解する.幼児または小学生を対象としたキャンプの実際や安全管理についての学びを保育現場（お泊り保育など）で応用するため,実際のキャンププログラムを計画し,発表する.希望する者は,日本キャンプ協会認定キャンプインストラクター資格の取得を目指す.（別途実技講習,申請登録費用等が必要となる.）			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	野外教育キャンプの歴史		
3	野外教育キャンプ,組織キャンプとは		
4	様々な環境とキャンププログラム		
5	こどもたちにとっての野外活動		
6	野外教育キャンプにおける指導者の役割		
7	グループワークⅠ		
8	グループワークⅡ		
9	ロープワーク,テント設営		
10	レクリエーション		
11	安全思想・安全管理		
12	確認テスト		
13	キャンププログラム計画Ⅰ		
14	キャンププログラム計画Ⅱ		
15	総括・発表		
<b>【成績評価方法】</b>			
①確認テスト（50点）,②レポート,発表における評価（30点）,③授業参加への取り組み（20点）の合計100点として成績評価を行う.			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが,野外活動団体や冒険活動に関する映像なども適宜取り入れる.担当教員は,東京都社会教育事業,専門学校や民間団体のキャンプ指導の経験があり,実務経験をもとに授業を展開する.			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修科目	子どもと言葉		笹井 美佐
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<p>①乳幼児の言葉が育つ文化的環境について理解する。  ②言葉の発達に関わる児童文化財に関する知識を、主体的に学ぶ。  ③児童文化財を行うにあたっての基礎的技術を実践的に習得する。  ④乳幼児の言葉の発達を理解し、児童文化財の実践を主体的に行っていく。</p>			
<b>【講義概要】</b>			
乳幼児期の言葉の発達を学び、言葉と心の育ちについて実践事例を基に解説していく。また、乳幼児の心の理解をし、保育者としての専門性を習得することを目的とする。その中で、言葉の発達を促す児童文化財の意義を認識し、主体的に実践しながら学びあっていく。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	言葉とは何か①		
3	言葉とは何か②		
4	言葉を豊かにする環境と児童文化財①		
5	言葉を豊かにする環境と児童文化財②		
6	絵本を選ぶ		
7	絵本の読み聞かせをしてみよう①		
8	絵本の読み聞かせをしてみよう①		
9	紙芝居を選ぶ		
10	紙芝居を演じてみよう		
11	児童文学とは何か		
12	様々な児童文化財に触れ実演しよう①		
13	様々な児童文化財に触れ実演しよう②		
14	様々な児童文化財に触れ実演しよう③		
15	まとめ（保育者はこどもにどう働きかけていくか・保育者の役割）		
<b>【成績評価方法】</b>			
①レポート・提出課題（60点）、②授業への参加（30点）、③授業への態度（10点）の合計100点として、成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
乳幼児期の子どもの発達において、言葉の習得と言葉を使用しながらコミュニケーションをとることは大切なものになっていく。言葉を育む上で、絵本や紙芝居を上手に活用するために、絵本の選び方、読み聞かせを行い、実践していく。また、子どもの豊かな心と言葉を育めるよう、様々な児童文化財に触れ、実践発表をしていく。			

開講課程	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	2年・前期	1単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
独自科目（選択必修）	子どもの生活と遊び		齋藤 亮
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
アコースティックギターを使い、曲の伴奏や弾き語りを演奏する技術を覚え、保育の現場でもギターを使い子供達とコミュニケーションを取れるようになる事を目標にします。基本的なギター奏法やコードネームの理解を重点的に行う授業をします。			
<b>【講義概要】</b>			
ギターの基本的な弾き方。チューニング。コードネームとコードフォームについて。			
回	授業計画および学習の内容		
1	ギターの仕組みとチューニング、フォーム、弾き方について。		
2	コード、ストローク、基本的なギター奏法について		
3	コード、ストローク、基本的なギター奏法について		
4	コード、ストローク、基本的なギター奏法について		
5	コード、ストローク、基本的なギター奏法について		
6	コード、ストローク、基本的なギター奏法について		
7	コード、ストローク、基本的なギター奏法について		
8	発表会		
9	最後のコマの発表会に向けての各自それぞれの目標曲の選曲、練習		
10	最後のコマの発表会に向けての各自それぞれの目標曲の選曲、練習		
11	最後のコマの発表会に向けての各自それぞれの目標曲の選曲、練習		
12	最後のコマの発表会に向けての各自それぞれの目標曲の選曲、練習		
13	最後のコマの発表会に向けての各自それぞれの目標曲の選曲、練習		
14	最後のコマの発表会に向けての各自それぞれの目標曲の選曲、練習		
15	発表会		
<b>【成績評価方法】</b>			
発表会の際に生徒各自が演奏した曲の内容、クオリティ、ギターに取り組む姿勢などで採点			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
音楽的個性を活かせるような授業の進め方で、生徒の皆さんそれぞれに対応した形で授業を進めたいと思います。			

<b>開講課程</b>	<b>開講年度</b>	<b>履修対象</b>	<b>単位・時間数</b>
保育専門課程	2024年度	2年・後期	1単位・30時間
<b>講義区分</b>	<b>授業科目名</b>		<b>担当教員</b>
必修科目	子どもの造形あそび		塩川 岳
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
①造形あそびの実践を通して、その意義と役割を考える。 ②自ら考え工夫して、子どもの自由な「あそび」と「造形」に寄り添い、幼児の豊かな造形表現を引き出すための保育者としての姿勢を育成する。			
<b>【講義概要】</b>			
造形あそびの実践・体験を通して、子どもの自由な「学び」や「気付き」に寄り添う姿勢を身につける。 グループ活動を通してオリジナルの造形あそびを考案し、実践に役立てるスキルを身につける。			
<b>回</b>	<b>授業計画および学習の内容</b>		
1	オリエンテーション		
2	造形あそびの実践例（講義＋演習）		
3	仕組みのある造形あそび（1）		
4	仕組みのある造形あそび		
5	仕組みのある造形あそび		
6	仕組みのある造形あそび 鑑賞		
7	身近材を使った造形あそび		
8	身近材を使った造形あそび 鑑賞		
9	仕組みのある造形あそび（2）		
10	仕組みのある造形あそび		
11	仕組みのある造形あそび		
12	仕組みのある造形あそび		
13	仕組みのある造形あそび		
14	仕組みのある造形あそび 鑑賞		
15	ふりかえり・まとめ		
<b>【成績評価方法】</b>			
授業への出席や意欲 40% 制作や鑑賞活動 40% 発表やレポートなど 20%			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
演習を基本とし、講義および鑑賞・発表・グループディスカッションなどの主体的、対話的な授業形式を取り入れる。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
選択必修	福祉論特講		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育を支える理念を説明できる。</li> <li>2. 主な障害に関する特性を説明できる。</li> <li>3. 主な障害に関する援助の具体的な方法を説明できる。</li> <li>4. 家庭への支援や、関係機関との連携・協働について説明できる。</li> <li>5. 障害児保育の現状と課題について説明できる。</li> </ol>			
<b>【講義概要】</b>			
<p>障害児保育を支える理念を踏まえ、様々な障害のある子どもの特性や心身の発達に応じた援助・配慮を学びます。事例等を通して障害児保育の実践を学び、援助の具体的な方法に関する理解を深めます。また、障害のある子どもの家庭支援や関係機関との連携を理解し、障害児保育の現状と課題を考えます。</p>			
回	授業計画および学習の内容		
1	障害とは何か		
2	ライフステージとライフコース		
3	障害と出会う		
4	乳児期の発達		
5	幼児期の発達		
6	障害児保育の基本		
7	障害の理解と支援（発達障害の基礎知識）		
8	障害の理解と支援（ASDの特性）		
9	障害の理解と支援（ASDの支援）		
10	障害の理解と支援（ADHDの特性）		
11	障害の理解と支援（ADHDの支援）		
12	障害の理解と支援（SLDの特性）		
13	障害の理解と支援（SLDの支援）		
14	発達特性とは何か		
15	発達特性を理解した支援		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験（60点）、②授業への参加・意欲（30点）、③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
<p>講義に加えてグループワークを行うことにより、皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。</p> <p>担当教員(荒木)は、幼児から成人の地域福祉（療育・相談援助）の実務経験に基づき授業を展開します。指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。</p>			



開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	福祉論特講		荒木 光
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
1. 現代社会における社会福祉の意義，歴史的変遷，子ども家庭支援について説明できる。 2. 社会福祉の制度・実施体系について説明できる。 3. 社会福祉における相談援助・利用者保護について説明できる。 4. 社会福祉の動向・課題について説明できる。			
<b>【講義概要】</b>			
保育士に求められる社会福祉の基礎知識（社会福祉に関する問題・課題，社会福祉の役割・意義・歴史，社会福祉の対象，社会福祉の実践，近年の動向・課題）について学習します。また，社会福祉における子ども家庭支援の視点についても習得できることを目指します。			
回	授業計画および学習の内容		
1	社会福祉とは何か		
2	社会福祉を取り巻く日本の現状		
3	社会福祉の主な対象と福祉ニーズ		
4	社会福祉の理念①（権利のしくみ）		
5	社会福祉の理念②（社会福祉法）		
6	社会福祉の法体系		
7	社会福祉の実施体制		
8	社会保障制度		
9	障害者福祉		
10	高齢者福祉		
11	貧困問題		
12	子ども家庭福祉		
13	相談援助の基礎		
14	福祉サービス利用者支援		
15	社会福祉の動向と課題		
<b>【成績評価方法】</b>			
①定期試験（60点），②授業への参加・意欲（30点），③小テスト・小レポート（10点）の合計100点として成績評価を行います。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義に加えてグループワークを行うことにより，皆さんが主体的に学びを深めていけるよう授業を行います。授業で学んだ内容に関する小テスト・小レポートを課します。 担当教員(荒木)は，幼児から成人の地域福祉（療育・相談援助）の実務経験に基づき授業を展開します。 指定テキストはありません。毎回の授業で資料を配布します。			

開講科目	開講年度	履修対象	単位・時間数
保育専門課程	2024年度	1年・前期	2単位・30時間
講義区分	授業科目名		担当教員
必修科目	保育学		齊藤 希世
<b>【授業の到達目標・およびテーマ】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義及び目的について理解し、説明することができる。</li> <li>2. 保育に関する法令及び制度を理解する。</li> <li>3. 保育所保育指針に示されている保育の基本原則を理解する。</li> <li>4. 保育の歴史を踏まえて現代の保育の意義を理解する。</li> <li>5. これからの保育の課題について理解する。</li> </ol>			
<b>【講義概要】</b>			
今日の保育を支える保育思想の源流を学び、保育の根底をなす子どもや保育をみることの意義と目的について学ぶ。そして保育所保育指針に示された保育の意味や実践のあり方について基本となる知識を身に付ける。自らの保育者像や保育観を構築する土台を習得し、これからの保育の課題や保育者のあり方について考える。			
回	授業計画および学習の内容		
1	オリエンテーション、保育の意義①保育について考える。		
2	保育の意義②保育の社会的役割と責任		
3	子どもと保育に関する法令および制度		
4	保育の基盤としての子ども観		
5	保育所保育指針に基づく保育①保育所保育指針とは何か		
6	保育所保育指針に基づく保育②保育指針の内容		
7	保育所保育指針に基づく保育③保育指針に基づく保育の展開		
8	保育所保育の方法		
9	保育の計画・実践および評価		
10	歴史から保育を理解する①西欧の保育思想と歴史の変遷		
11	歴史から保育を理解する②日本の保育思想と歴史の変遷		
12	保育者が大切にしたい5つの保育原理		
13	多様化する保育者・保育の場、保育者のあり方を考える		
14	まとめ（学びの振り返り）		
15	まとめ（理論と実践を繋ぐ）		
<b>【成績評価方法】</b>			
①試験60点、②授業への参加・意欲30点、③ノートの内容（授業時に回収）10点の合計100点として成績評価を行う。			
<b>【授業の特徴・形式と教員紹介】</b>			
講義形式を基本とするが、講義の主題を深める上で授業参加者が意見を交わす対話形式を取り入れ、保育に対する自らの学びを深める。担当教員は、幼稚園・保育園・こども園・子育て支援の実務経験に基づいて授業を展開する。			